《敦煌寫本研究年報》第十七號（2023.03）227–236 頁

中國國家圖書館所藏の敦煌出土チベット語文書について（一）

——敦煌藏漢對音資料補遺*

Notes on the Tibetan Dunhuang Manuscripts in the National Library of China: Fragments of Chinese Texts with Tibetan Phonetic Glosses

龔麗坤

はじめに

中國國家圖書館（National Library of China, 略稱 NLC）は、清の學部によって宣統元年（1909）、北京廣化寺境內に京師圖書館が設置されたのを淵源とし、中國の政情變化とともに、その名前も所在地もたびたび變更されている。1998 年中國國務院の批准を經て、現在は「中國國家圖書館」と稱されている。この國家圖書館は、世界の四大敦煌文獻所藏機關の一つである。現在、國家圖書館に保存されている敦煌文獻は 16,000 點を超え、中國で最大級の規模を誇っている。2005 年に刊行が始まった北京圖書館出版社『國家圖書館藏敦煌遺書』全 146 册は、7 年の年月をかけて 2012 年に完成した。最近になって、同館から詳細な『國家圖書館藏敦煌遺書總目錄』（全 8 册）（略して『總目錄』）も刊行された[1]。

*小文の內容は、2021 年 9 月 25 日、第五回東大・京大中文研究交流會において發表した。また小文は日本學術振興會科學研究費（21J15695）による成果の一部である。小文を纏めるにあたり，京都大學名譽教授高田時雄先生に多くの御指導を頂きました、厚く感謝の意を表します。

[1]北京敦煌文獻の目錄に關しては、早くに『敦煌劫餘錄』（上海：國立中央研究院出版品國際交換處、1933）があり、現在臺灣國家圖書館と國立臺灣大學圖書館によってデジタル化され、「臺灣華文電子書庫」公式サイトで無料公開されている（http://taiwanebook.ncl.edu.tw/zh-tw/book/NTUL-9910003072）。また、敦煌研究院編『敦煌遺書總目索引新編』（北京：中華書局、2000）もあり、マイクロフィルムの目錄として、中田篤郎編『北京圖書館藏敦煌遺書總目錄』（京都：朋友書店、1989）もある。

『總目錄』によると、チッベト文字を含む敦煌寫本は、總數683點に及んでいる。その內譯はチベット語『無量壽宗要經』關係463點、チベット文字題記46點、雜寫55點[2]、未分類寫本136點である。當館所藏の16,579點のうち、とりわけBD09284以降の文獻については、斷簡が大量に含まれていることもあって、文獻の比定の試みもなされておらず、解說にも多くの場合「內容待考」とされている。完全な目錄を完成させるという目的から見るとまだ不十分であると言わざるを得ない。

中國國家圖書館所藏の敦煌出土チベット語文書に對する研究は、ほかのコレクションと比べると、はるかに遲れていると言わざるを得ない。高田時雄先生が、國家圖書館所藏敦煌文獻のマイクロフィルムの調查に基づき、1999年に「北京敦煌寫本卷中包含的藏文文獻」を發表した。收錄解說される所すべて31點（そのほかには『金有陀羅尼經』チベット文字題記34點、『無量壽宗要經』7點)、國家圖書館の敦煌チベット文字寫本がまとまって紹介された最初の文獻であり、これまで敦煌學研究者の廣く利用するところとなってきた。當面の課題については、この論文が指針となっている。しかし、以降20年間、このような整理作業が中斷していることはいかにも殘念なことである。國家圖書館の敦煌チベット文獻にはいまなお不明な文獻が多數存在することを考えると、基礎的な文獻資料整理・編集や目錄の作成などを行うのは必ずしも無意味なことではないと考える。

これら寫本の內容を見ると、それぞれに注目すべき重要な性格が見られる。本稿では、『國家圖書館藏敦煌遺書』に依據し、そこに含まれるチベット文字關連寫本について概觀しつつ、いささか基礎的な整理を試みたい。次に、その中に含まれるチベット語關係文獻について考察を加えることにしたい。

藏漢對音資料補遺

チベット文字による音注が付された漢文佛典は以下の2點である。

一、天地八陽神呪經

『天地八陽神呪經』はインドで成立したものでなく、實は中國において作られたいわゆる「僞經」である。この經典の寫本は、敦煌を含め中央アジアから大量に出土しており、かつてこれらの地方で廣く流行していたことが分かる。

[2]筆者は、この『總目錄』の中から、チベット文字題記のうちには『無量壽宗要經』寫本10點、雜寫のうちにも『無量壽宗要經』寫本7點が含まれているを確認した。

その『天地八陽神呪經』の藏漢對音資料について、下記の音注本 BD11616 以外にも、すべてチベット文字で漢語を書き記した音寫本もある[3]。ちなみに、この二つのテキストはほぼ重複しない。

BD11616

漢文本『天地八陽神呪經』の斷簡。一部の文字にチベット文字による音注が附いている。計十一行の殘片であり、下半分も缺損している。

錄文は下記の通り。

01　女貞。兄恭弟順。夫妻［ ］
02　成就。若有眾生，忽 (ho) 被 (be)[4]　［ ］
03　暫 (dzam) 讀此經三遍。卽得［ ］
04　女人。受持讀（doug）誦。爲［ ］
05　水火。不被（phyi）焚漂（phyi'u)。或［ ］
06　不敢博（pag）噬（she)。善神衞［ ］
07　若復有人。多於妄［ ］
08　持讀誦此經。永除[5]四［ ］
09　道。
10　復次善男子善女人。［ ］
11　墮（dwa）地獄。受無量苦。其子［

この斷簡は、短いものであるが、今までに發見された『天地八陽神呪經』音注本の唯一例として注目される。「被」の音注は、「be」と「phyi」の二つがあって、明瞭な違いがあるものの、この相異の原因については不明である。さらに、「讀」の基字 d には、上に o、下に u の二つの母音が書かれている。勿論これは古典チベット語の正書法に背いたもので、他のチベット文字音寫資料にもあまり見えない。PT1258 を調べると、音寫本の 15 例「讀」の音寫は、例外なく全部「dog」を用いている。

[3]PT1258 である。この音寫本を最初に『天地八陽神呪經』であると同定したのはサイモン氏であった。Simon, Walter. "A note on Chinese texts in Tibetan transcription." *Bulletin of the School of Oriental and African Studies*, 21–2 (1958), 334–343. 專門的な研究（音韻特徵・錄文など）については、高田時雄『敦煌資料による中國語史の研究』（東京：創文社、1988）を參照。

[4]「被」以下半分は缺落していて、pye か pe かよく讀めない。

[5]「除」字の旁に音注は存在するが、よく讀み取れない。PT1258 に同じ「除」が 2 回現れ、そこでは ci となっている。

二、絶觀論

『絶觀論』は初期禪文獻の一つである。『絶觀論』については、20 世紀中すでに 6 種の漢文異本（P2045、P2732、P2074、P2885、石井光雄舊藏、BD02284）が知られている[6]。またこれら 6 種の文獻校定・譯注としては、すでに柳田聖山氏による成果がある。『絶觀論』の斷簡は、さらに俄藏から 4 點（Дx.4259、Дx.5881、Дx.6230、Дx.8769）[7]、ベルリン＝ブランデンブルク科學アカデミー藏トルファン文獻 1 點（ch1433）[8]英藏 2 點（S12208、S12370）[9]、北京藏 2 點（BD09790、BD11564）が發見されている。

『絶觀論』の作者問題については、まだ定說がない。最初、鈴木大拙氏はその作者が菩提達摩であると主張された。これに對して、久野芳隆氏、關口眞大氏によると、此を牛頭法融その人の作品であり、そのあと、中川孝氏によって更めて提起された菩提達摩說などもある。以上の諸說は、柳田聖山氏によると、「すべてが假說の域を出ない」と、辛辣に批評されている。柳田氏は、上記の 6 種の漢文異本を詳細に比較校合し、『絶觀論』テキストの三段階の發展過程を提示した[10]。

BD11564＋BD09790

『絶觀論』殘卷。首尾殘缺。BD11564 は 9 行からなる小斷片で、BD09790 に前接する。BD09790 は比較的長く、兩者合わせて 106 行となる。全部の漢字に音注されている譯ではなく、全體の約一割の漢字にチベット文字音注が付けられている。ちなみに BD09790 の最終行にチベット文字音注が數個見えるが、對應する漢字が BD09790 寫本には缺けているので、附錄錄文ではこの第 107 行を他のテキストによって補っておいた。

この音注本の音韻的な特徵については、まだ理解できない箇所が幾つかある。殘念なことに『國家圖書館藏敦煌遺書』には白黑の寫眞しか揭載されていないので、朱筆で書かれた音注は極めて讀みづらい。

細部の運筆（とくに母音記號など）はぼやけた狀態になっているため、結果として韻母についての研究は斷念せざるを得ない。しかしながら、本寫本の音注は

---

[6]『絶觀論』が初めて提示されたのは 1933 年出版の『敦煌劫餘錄』である。日本では、1935 年、鈴木大拙が『少室逸書』に、當時の北平圖書館（現中國國家圖書館）所藏寫本の寫眞を收めている。柳田聖山、「絶觀論とその時代」、（『東方學報』52、1980 年）を參照。

[7]中西久味「『俄藏敦煌文獻』禪籍初探」、（『比較宗教思想研究』第 5 輯、2005 年）。

[8]Tsuneki NISHIWAKI, *Chinesische und manjurische Handschriften und seltene Drucke, Teil 3: Chinesische Texte vermischten Inhalts aus der Berliner Turfansammlung*, 2001.

[9]程正「英藏敦煌文獻から發見された禪籍について—S6980 以降を中心に—（1）」、（『駒澤大學佛教學部論集』48、2017 年）を參照。

[10]柳田聖山「絶觀論の本文研究」、『禪佛教の研究』（京都：法藏館，1999）、80–89 頁。

比較的古いものであると考えている。理由は以下の通りである。

① 宕攝・梗攝の鼻音韻尾-ng が常に表記されている。
② 反轉キク字（gi-gu inverse）とキク字の區別がある[11]。
③ 見母はすべて無聲音の k-として轉寫される。
④ 來～孃母交替例がある。
⑤ 明母・孃母はすべて單純な鼻音で表記される。

その解釋については他の對音資料の參考が必要であり、今後補足できれば幸いと考えている。

附錄：BD11564+BD09790 錄文[12]

01 薄知妙理。與彼外道五通、何者勝[13]。
02 答曰、先取入理微證、何用彼造（道）事
03 五通乎[14]。問曰、若得五通者[15]、交爲世所尊、交
04 爲世所重。前知亦然[16]、知[17]過事。自防愆犯、豈
05 不勝哉。答曰、不然。何以故、一切世間人心多
06 著想[18]、貪緣事業、假爲亂眞。彼雖有
07 勝意之通、善星之辯（ben）、若不知實想（相）之
08 理者、皆不免（myan）浸（dzim）[19]魂於裂（ler）地之患[20]。於是緣
09 門復起。問曰、大道者爲獨在於形器[21]之中
10 耶、亦在於草木之內耶。答曰、大道者無所
11 不遍。又問、道若遍者、何故煞人有罪、煞
12 草木無辜[22]。答曰、夫言罪不罪者、皆是就

[11]後掲錄文では反轉キク字を大文字の "T" で示した。
[12]チベット文字による音注は漢字の右側に書かれるのが通例だが、本錄文では該當する漢字の後の括弧中に示した。また漢字テキストの異文は注で示したほか、明かな誤りは（ ）を用いて訂正し、脱文は［ ］で補った。
[13]「勝」の下、P2074 は「也」あり。
[14]「乎」、P2074 になし。
[15]「若」、「者」，P2885 になし。
[16]「亦」、P2074 本は「未」。
[17]「知」の上に、P2074 は「卻」あり。
[18]「想」、P2074 は「相」。
[19]「浸」、P2074、P2885 は「沒」。
[20]「裂地之患」以下、柳田校本は「緣門問曰、道者爲獨在於形靈之中耶、亦在於草木之中耶。入理曰：道無所不遍也」あり。
[21]「器」、P2074 は「靈」。
[22]「辜」、P2074 は「罪」。

13　情約（”ag）事、非正道也。但爲人不達理者、妄立
14　我身、煞卽有心、心結於業、卽云罪業
15　也。草木水[23]無情、本來合道、理無我哉、
16　煞者不許（hi）（計）、卽不論罪與［非］罪。夫無我哉
17　合道者、視刑（形）如草木、破斫（cag）如樹（zhu）林（nim）。故文殊執
18　劒於瞿曇、鴦鶵（掘）持刀於釋氏。此皆合道同
19　證無生、了知幻化虛無。故不論罪與非罪。
20　問曰、若草木本來合道者、經中何故不記
21　草木成佛、偏（phyen）記（ki）人也。答曰、非獨記人、
22　草木名記[24]。經云、於微塵中具含一切法。又云、一
23　切法亦如也、一切眾生亦如也。如無二無差別。
24　於是緣門復起。問曰、如是畢竟空理、當於
25　何求、於[25]何證。入理答曰、當於一切色中
26　求、當於自語中證。問[26]曰、云何當於一
27　切[27]色中求、當於自語中證。答曰、空色[28]一合、
28　語證不二。問曰、若一切法空、何爲聖通凡
29　壅。答曰、妄動[29]故壅（”ung）、眞靜[30]故通。問曰、既
30　實通者、何爲受薰[31]。若既受薰、豈成空
31　也。答曰、夫言妄者、不覺不知[32]忽而起、不
32　覺忽而言。其實空體中、無有一法而
33　有薰者。問曰、若實空者、一切眾生、卽
34　不修道。何以故、自然性是故。答曰、一切眾
35　生、解空理、實亦不假修道、只爲於空
36　不空生於有惑。問曰、若如此者、應離惑
37　有道。云何言一切非道。答曰、不煞非道、
38　惑卽是道、非離惑是道。何以故、如人醉時

[23]「水」、P2074 なし。
[24]「草木名記」、P2074 は「草木亦記」。
[25]「於」の上に、P2074、P2885 は「當」あり。
[26]「問」の上に、P2074 は「又」あり。
[27]「當於一切」四字、P2074 になし
[28]「色」字、P2074 になし
[29]「動」、P2074 は「董」。
[30]「靜」、P2074 は「淨」。
[31]「薰」、P2074 は「董」。以下同じ。
[32]「不知」、P2074 になし

39　非醒、醒時非醉。然不離醉有醒、亦不離[33]。
40　問曰、若人醒時、致醉何在。答曰、如手翻（phan）
41　覆。若手翻時[34]、不應更問覆手何在。如是
42　緣門復起。問曰、若人不達此理、得說
43　法化眾生不。入理答曰、不得。何以故、自眼未
44　明[35]、焉治（ji）[36]他目。問曰、隨其智力、方便化之。不
45　得耶。答曰、若達道理者、了（可）名智力。若不
46　達道理者、名爲無明力。何以故。助（je）己煩惱
47　氣力故胡（ho）[37]。問曰、雖然不能如是化[38]人者、且教
48　眾生行十善或[39]安處人天。豈不益善哉。
49　答曰、至理無益、更招二損。何以故、自陷（hem）陷他故。
50　自陷者、所謂自妨於道。陷他者、所謂不免
51　受輪迴六趣也[40]。問曰、聖人豈不說五乘有[41]差
52　別耶。答曰、聖人無心說差別法、但彼眾生
53　自心悕望現。故經云、若彼心滅盡、無乘及
54　乘者、我說爲一乘[42]。於是緣門復起。問曰、何
55　爲有爲眞學是[43]道[44]爲他所知、不爲他所
56　識者。何爲也。答曰如其。奇（ke）珍（cin）非爲貧窮之
57　所識、眞人非群爲（爲群）邪僞之所知。問曰、世有僞人、不
58　閑[45]正理。外現威儀、專精事業、多爲男女所
59　親近者、何也。答曰、如姪女（ce'u）招群（gun）男、梟（che'u）宍（zhug）
來
60　眾蠅（yang）。此爲名相之數[46]。於是緣門復起。
61　問曰、云何菩薩行於非道、爲通達佛道。答曰、

[33]「不離」、P2074 は「非醉卽是」。
[34]「覆、若手翻」、P2074 になし」。
[35]「明」、P2074 は「開」。
[36]「治」、P2074 は「能」。
[37]「氣力故胡」、P2074 は「作起力故」。
[38]「如是化」、P2074 は「以理遵」。
[39]「或」、P2074、2885 は「五戒」。
[40]「六趣」、P2074 になし。
[41]「有」、P2074、2885 は「又」。
[42]「我說爲一乘」、P2074 になし」。
[43]「是」、P2074 になし」。
[44]「道」の下、P2074 には「人不」あり。
[45]「閑」、P2074 は「關」。
[46]「數」、P2074 は「所」。

62　善惡無分別。問曰、何謂無分別。答曰、於法

63　不生心也。問曰、可無作者乎。答曰、非有無

64　作者。問曰、可不覺知乎。答曰、雖知無我也。

65　問曰、無我何有[47]知。答曰、知亦自無性[48]。問曰、道

66　我有何妨。答曰、知名亦不妨。只恐心中有事。[49]有何

67　妨。答曰、無妨卽無事（shi）。無事問何妨。問曰、若簡（gen）有

68　事取無者、云何名行非道也。答曰、其實無

69　事。汝强（gang）遣（kyen）[50]他生事作何物。問曰、叵有因緣

70　得煞生不。答曰、野（ya）火燒山、猛風折樹、崖（ge）崩（beng）

71　壓（”ag）獸（she’u）、汎（phan）水漂蟲。心同如此、合併（pyeng）儅（tang）得。若有

72　猶豫。見生見煞、中有心不盡者、乃至蟻子

73　亦繫乎命業。問曰、叵有因緣、得偷盜[51]不。

74　答曰、蜂（phung）採（tshe）池（ji）蓮（len）、雀（chyag）銜（[ ] e）庭（deng）粟（syag）[52]、牛喰澤豆、馬噉（dan）

75　原[53]禾（ha）。畢竟不作他物解者、合山嶽亦（yig）擎（geng）

76　取得。若不如此者、乃至針（cim）鋒（phung）[54]縷（lu）[55]葉（ya）[56]、[繫] 你（neng）頭（de’u）[57]

77　作奴（’do）婢（byi）。問曰、叵有因緣得行婬不。答曰、天

78　覆於地、陽（yang）合［於］陰、廁（ci）承（zhi）上（le’u）漏、泉（tsin）澍（[ ]）於 ke’u 溝。心同

79　如此、一切無障礙。若情生分別、乃至自家（ka）婦

80　亦汚你心。問曰、叵有因緣得妄語不。答曰、語

81　而無主、言而無心、聲同鐘（tung）響（hyang）、氣（khi）類（rI）風音（im）。

82　心同如此、道佛亦[58]無。若不如此、乃至稱

---

[47]「何有」、P2885 は「有何」。
[48]「性」、P2074 は「情」。
[49]「有」の上に、P2074、P2885 は「有事」あり。
[50]「遣」、P2074 は「死見」。
[51]「盜」、P2074 は「道」。
[52]「粟」、P2074 は「系」。
[53]「原」、P2885 は「薗」。
[54]「鋒」、P2074 は「錐」。
[55]「縷」、P2074 は「縱」。
[56]「葉」、P2074 は「業」。
[57]「頭」、P2074 は「項」。
[58]「亦」の下に、P2074「是」あり。

83　佛亦是妄語。於是緣門復起。問曰、若存
84　不存身見、云何行住坐臥也。答曰、但行住坐臥、
85　何（[ ]）須（su）立[59]身（[ ]）見。問曰、既不能得存心者、得思惟
86　義理不。答曰、若計有心、不思惟亦有心思惟[60]。
87　若了無心者、設思惟亦無。何以故、譬如禪
88　師淨坐而興慮、猛（meng）風（phung）亂動而無心。於是緣門
89　復起。問曰、若有初學道人、忽遇因緣、他
90　欲來害（he）、云何對（twe）治（ji）而合道乎。答曰、一箇（ka’）不
91　須對治。何以故、可避（byi）避之、不可避任之、可忍
92　忍之。不可忍哭之。問曰、若哭（khog）者、與他有我見
93　有[61]我人何別。答曰、如杵（cho）和（ha）[62]鐘、其聲自然出
94　也。何必卽有我乎。汝若强（gang）死（si）捉（tswag）心、噤（tsing）齒口[63]忍、
95　此乃存大大[64]我。問曰、人之哭（khog）哀中有情動、
96　豈同鐘響也。答曰、言同與不同者、俱[65]是
97　汝多事。妄想思量作是問。若無心分別、
98　躰道自然。問曰、吾聞聖人兵（peng）不傷（shang）苦[66]不
99　哭殃[67]、色不受、心不動。此何物[68]也。答曰、若了
100　一切法無我、聲與不聲、動與不動、俱合
101　道理無妨碍。於是緣門復起。問曰、我見有
102　學道人、不多專（can）精（cing）進持（ji）戒、不護威儀、不
103　慇（”im）懃（khwen）、不化眾生、騰（teng）騰任運（‘win）者何意也。
104　答曰、欲亡一切分別心、欲滅一切諸有見。雖
105　似騰騰任而內無間。問曰、如此行者、乃更
106　生他小兒之見、云何言能滅見也。答曰、但滅
107　汝見、何慮他生。譬如（zhi）魚脫（[ ]）深（sim）淵（”wan）…]

---

[59]「立」、P2074 は「六」。
[60]「心思惟」、P2885 は「心」、P2074 になし。
[61]「有」、P2074 になし。
[62]「和」、P2074 は「如」。
[63]「口」、P2074 は「噤」。
[64]「大」、P2885 になし。
[65]「俱」、P2074 は「但」。
[66]「傷苦」、P2885 は「苦傷」。
[67]「殃」、P2074 になし。
[68]「物」、P2074 は「爲」。

（作者は京都大學文學研究科博士後期課程）